

※このメールは、MIT・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC でお送りしています。

※四半期に 1 度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信していただけますと送付リストから外します。よろしくお願いいたします。

季節は秋も終わり、もう冬になろうとしています。月日の経つのは速いですね。もう年末が迫っていますよ！ さてさて、欧州の朝晩はかなり冷え込んできましたが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

今回も、MIT メンバー 3 名から、皆さまに最近のドイツ・スイスのエネルギーなどの動向について、そして各種の告知についてメールニュースをお送りします。

今回は、MIT の並び順は、池田→滝川→村上という順でコラムを書いています。最後までお楽しみくださいね(村)。

MIT: 池田

地方の問題と課題は地方でないと感じられない

森林の仕事をメインに、3 週間日本に滞在しました。岐阜の高山、北海道の知内、長崎の諫早を回り、最後の数日は東京に滞在しました。

今回強く感じたことは、地方の感性と都会の感性の違いです。各地でいろいろな人たちと話し、意見交換しましたが、地方の人たちが持っている閉塞感や危機感、問題や課題、夢や展望は、アスファルトと鉄筋コンクリートに覆われ、忙しく都会で暮らしている人たちが感じて理解するのは困難だと思いました。

地方のことは、その場所に行って、そこの空気に触れ、歩き、現地の人たちと接してはじめて、深く立体的に理解できると思います。

資源や生活物資、エネルギーを都会に供給しているのは地方です。工業化社会における勤勉で優秀な労働者を都会に提供してきたのも地方です。豊かな才能や発明は、自然や文化が豊かなところで生まれています。

お知らせ

★MIT&SSS 企画の視察セミナー(2015 年 2 月)について

先月に実施しました MIT 視察セミナー (10 月 5 日~11 日)は、参加者の方々から好評価をいただき、無事に催行できました。ご参加いただきました皆さまありがとうございます。

また、今回の視察セミナー日程の締めめのディスカッションで参加者の方から、こうした高い志を持つ MIT 視察セミナーの参加者・メンバーたち仲間で、小さくとも一つぐらい太陽光発電所を共同出資・共同所有したらどうかというアイデアが出ました。少しぐらいは口だけではなく、実践をしようよ、という意味で。

しかし実際問題として、単なるイニシアチブの単位で、日本で太陽光ファンドを組もうとすると結構大変です。現在、村上がコーディネートして、いろいろな手を考えています。年末の次号のメールニュースで皆さんに事業のスキームがお伝えできることかと思えます。お楽しみに。

さてさて、このようなスピナウト企画も出るほど盛り上がっている視察セミナーですが、来年初頭も、再エネと地域暖房、そして森林林業と木造建築という4つのテーマで2015年2月1日～7日にMIT視察セミナー特別編(SSS社との共催)を開催することに致しました(地域暖房についてはご要望が多いので、プログラムを修正しています)。

ご興味のある方は、是非プログラムをダウンロードしていただき、ご一読下さいませ。定員にはまだまだ余裕がございます。皆さまのご参加を、冬のスイス・オーストリア・ドイツでお待ちしています！

http://www.mit-energy-vision.com/fileadmin/content/MIT-japanisch/Seminar/MIT_SSS_Seminar201502F.pdf

<http://www.mit-energy-vision.com/news/listview.html>

お申し込みは、info@mit-energy-vision.com

MIT: 滝川

スイスで人気の 2000W 社会型の住宅地

人口増加が続くスイスでは、長いこと建設ブームが続いています。新築はお金持ち向けの戸建てやマンションが多いのですが、それと対抗するように(?)、各地で投機目的ではない良質な住宅供給を行う建設協働組合式(建築コーポラティブ)のエコ集合住宅地が次々に生まれてきています。ドイツのヴォーバン住宅地の影響かもしれませんが、スイスでも近年、大小のコミュニティ型住宅プロジェクトが都市部で高い人気を得ています。

中でも、この夏に入居がはじまったチューリヒ中心部の集合住宅地カルクブライテは、楽しいアイデアが一杯詰まっています。2000W 社会を実践すべく住民が中心になって建てられた省エネ・複合建築で、計500名の仕事と生活の場になっています。一人あたりの住面積の消費量をスイスの平均を大幅に下回る数字に設定しながらも、充実した共有の空間や設備、屋上菜園や庭、そして多様な住形態の混在により、とても豊かで快適、経済的な空間が実現されています。トラムの車庫の上に建設されていることもあり、公共交通の接続は抜群のカーフリー住宅地になっています。

集合住宅の中央玄関に入ると、共有のロビー・休憩空間、会議室、宿泊室などの他に、洗濯室があります。スイスの集合住宅では洗濯機は共同利用するのが普通ですが、通常は地下室に置かれています。カルクブライテには住民の出会いの場が沢山仕掛けられていますが、玄関ロビーの明るい洗濯場もその一つだそうです(笑)。とはいえ、住民によるコミュニティ自治はこれから。様々なワーキンググループの活動がどう展開されていくのか楽しみです。

お知らせ

★MITによる新企画『MIT ネットワーキング会議』を2015年5月に開催！

MIT Energy Vision 社が視察セミナーを提供し始めてから2年間が経過します。その間、視察参加者の方々の中には、地域の再生可能エネルギーや省エネルギーの事業に実践者として実際に携わる方々が増えてきています。

MITでは、これまでのセミナー参加者の中で、実践者の貴重な経験を共有し、意見交換を行い、横の繋がりを作る機会を設けたいと考えます。そのため、2015年5月26日(火)に「第一回 MIT ネットワーキング会議」を東京で開催します。

会議では、約6~8名の異なる分野で事業に取り組む方々のプレゼンテーションと質疑応答、ディスカッションを予定しています。その後、懇親会で交流を深めて頂ければ幸いです。

これまでにMIT社が提供する視察に参加された方であれば、同伴者1名まで併せて参加可能です。お申し込みは下記のメールアドレスまで。お申し込みの数によって会場も変更しますが、会場の人数上限に達し次第(30~60名)、締め切らせて頂きます。会議の詳細、会場などは追って後日ご連絡いたします。会場確保や席に限りがありますので、お早めにご連絡下さい！

申し込み先

MIT Energy Vision 社(滝川): takigawa@mit-energy-vision.com

開催要旨

日付:2015年5月26日(水)

会議:14:00~17:00(参加無料)

懇親会:17:30~19:30(実費有料)

場所:参加人数によって新橋のクラブヴォーバン会議室、あるいは毎日新聞社ホール

共催(予定):毎日新聞社、一般社団法人クラブヴォーバン、株式会社日本エネルギー機関

MIT:村上

日本・再生可能エネルギーは一旦足踏みか？

前回までのコラムでは、ドイツにおける再生可能エネルギー推進について、メルケル政権は脱 FIT によって一旦足踏み状態を形成しつつも、その中から新しい動きが出てきていることをお伝えしました。

そんな中、日本でもこの夏の終わりにいわゆる「九電ショック」によって、FIT についての新しい議論が矢継ぎ早に報道されています。大型の太陽光発電のみに偏ってしまった日本の FIT、本来はどうあるべきか、村上が簡単に試算してみました。ご参考まで。

<http://blog.livedoor.jp/murakamiatsushi/archives/51872008.html>

FIT の本来の機能は、あくまで再生可能エネルギー技術の自立を促す制度であって、その効果は、再生可能エネルギーの普及・促進をしながら、価格低下と技術発展を促すことです。適切で迅速に固定買取価格とその買取の条件を設定・更新することにより、政策で推進したい技術に対して、量の拡大と同時に低価格化も推し進めることができます。私が知るかぎり再エネ分野では飛び抜けて優れた制度です。

例えば、ドイツにおいてメガソーラーなど野立て太陽光発電では、1kWh あたり 45 セント（約 55 円）で固定買取が開始されました。そして市場が成熟し、普及が本格的になるまでは、その価格はじりじりと低下するだけでした。しかし 2008 年の 35 セントを皮切りに、普及量とともに買取価格は迅速に低下してゆき、2010 年 7 月には 25 セントと家庭用のグリッドパリティ達成。2012 年 4 月には 13 セントと産業用のグリッドパリティも達成しています。

今回 FIT が打ち切られる直前の 2014 年 7 月には、なんと 9 セント（約 12 円）を下回るようになっています。ここまで太陽光発電が安価になれば、家庭でも、産業でも、太陽光発電による新しい自家消費モデルが構築できます。今年の 8 月から野立て太陽光発電は FIT 対象から外れ、今後は政府が導入したい目標設置量を入札によって公募し、できるだけ安価な助成措置によって普及させる制度に移行していますが、ドイツの FIT 卒業は、失敗ではなく、あくまで成果であると私は考えています。

お知らせ

★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター

MIT 社では、ドイツの市民エネルギー企業であるソーラーコンプレックス社のニュースレター日本語版の製作に協力しています。

下記リンクから最新のニュースレターを日本語で読むことができます。ご参考まで。

<http://48787.seu1.cleverreach.com/m/5989726/>

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！